

ネパールの診療所 来月落成

津山ロータリー・クラブとAMDA連携



津山ロータリークラブがネパールに建設中の診療所=1月19日

津山ロータリークラブ(吉田隆三会長、九十七人)が、アジア医師連絡協議会(AMDA、本部岡山市)と連携しネパールに建設していた診療所が三月七日、落成する。同国の医療向上への貢献が期待されている施設で、クラブ会員らは現地で行われる落成式に出席、完成を祝う。

医療向上へ貢献

現地訪れ 式典参加

診療所は、首都カトマンズ市の隣接する人口約二万人のソルパティ村にあり、

提供を受けた国有地(約八

百平方メートル)に、鉄筋れんが造り二階延べ約二百三十平方メートルを建設中。昨年九月に着工、現在、電気設備や内装など仕上げ段階という。一階に診療所、二階は地元住民のコミュニティセンター、AMDAの海外支店・AMDAネパールの事務所として利用する。診療所にはAMDAネパールの医師二十七人が交代で勤務、診察や健康診断など行う。

同クラブ会員、リーマルさんら二十四人は三月四日、空路ネパール入り。ソルパティ村長、同国政府関係者らとともに七日、落成式に臨む。訪問団は津山市医師会から提供された聴診器など医療機器も持参する。

創立四十周年記念事業の一環。岡山大医学部留学中のAMDAネパールの医師ニルマル・リーマルさん(三三)

リーマルさんは「ネパールでは、栄養不良のため子供の二割が生後一年以内に死んでいる。病院に行くころにもお金がない人も多い。大変ありがたい」と感謝し、

岡山市寿町IIが橋渡し役になり、約四百万円をAMDAに託して実現した。

吉田会長は「診療所が村民の安心につながってほしい。村の人たちの友好親善もできればと考えており、現地訪問が楽しみ」と話している。